HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター　第33号
Issue Date	2020-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77354
Type	journal
File Information	newsletter33.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第33号　2020年1月

北海道大学 Hokkaido University
Archaeological Research Center News Letter

埋蔵文化財調査センター ニュースレター

特集 アースダイビング２

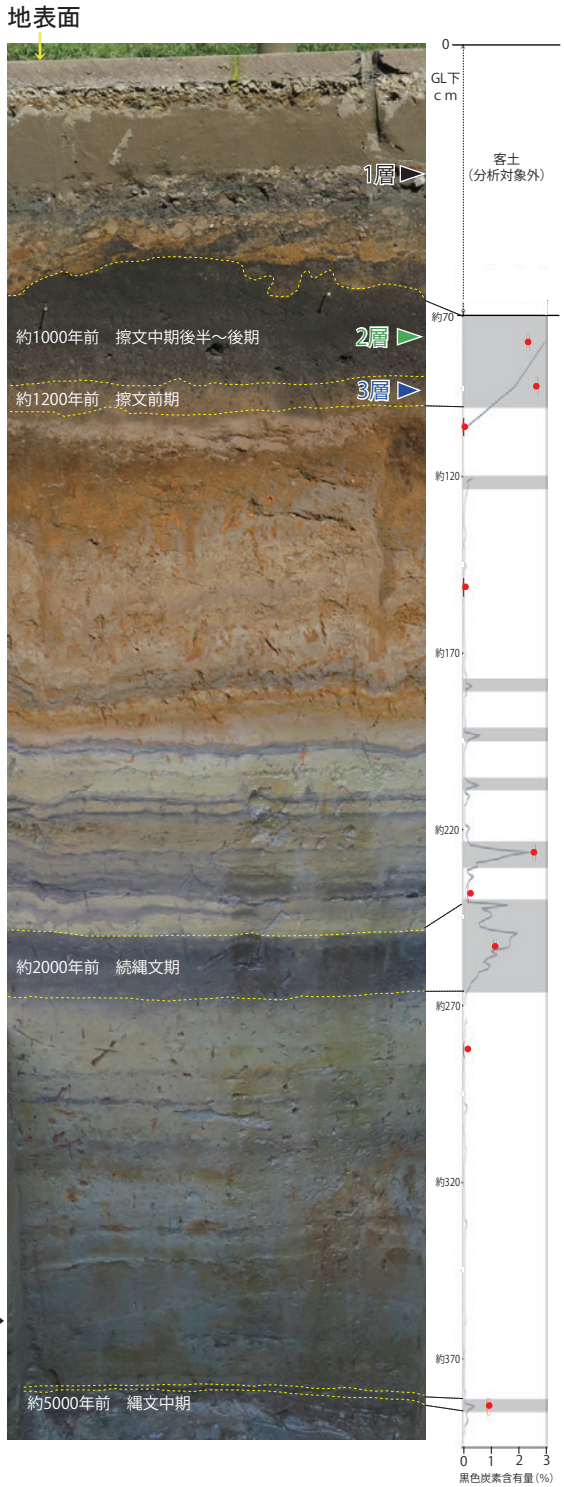
-北大キャンパスの地底世界へようこそ：K39遺跡総合研究棟（機械工学系）地点-

本号では新営工事に先立って実施した緊急発掘調査（2018年4月～10月）の成果を、本紙第28号に引き続き「アースダイビング2」として紹介いたします。

既存の工学部I棟（昭和43・45年建設）のコンクリート基礎を取り除くと、現地表面下約0.7mのところで、擦文文化中期・後期の遺物を包含する地層（2層）が現れてきました。さらに掘り下げると、擦文前期の竪穴住居址が残されている地層（3層）に到達しました。隣接する地点において以前の緊急調査（2000年）で発掘した1基の竪穴住居址（2頁No.21）に加えて、新たに発見された4基の竪穴住居址（同No.17～20）の様相から、当地点すなわち旧サクシュコトニ川上流域における擦文前期の集落の様相をさらに詳しく知ることができるようになりました。

また、近年の調査で徐々に明らかになってきた札幌キャンパスにおける縄文文化中期・後期にさかのぼる文化層の存在を確認するために、発掘調査の終盤には一箇所だけですが、さらに現地表面下4mの深さまで掘り下げてみました（3頁「深掘り位置」）。遺物・遺構の発見はありませんでしたが、掘り出された見事な地層断面（本頁右写真）は総合博物館での企画展『K39：考古学からみた北大キャンパスの5,000年』のために剥離標本として記録・作成することができました。さらに、地層断面の深部での地層の構成成分の分析が行われ、新たな知見が得られました（4頁コラム）。深部の黒色を呈する特徴的な地層の形成要因と人類活動とのかかわりの有無や程度についての今後の活発な議論が期待できます。

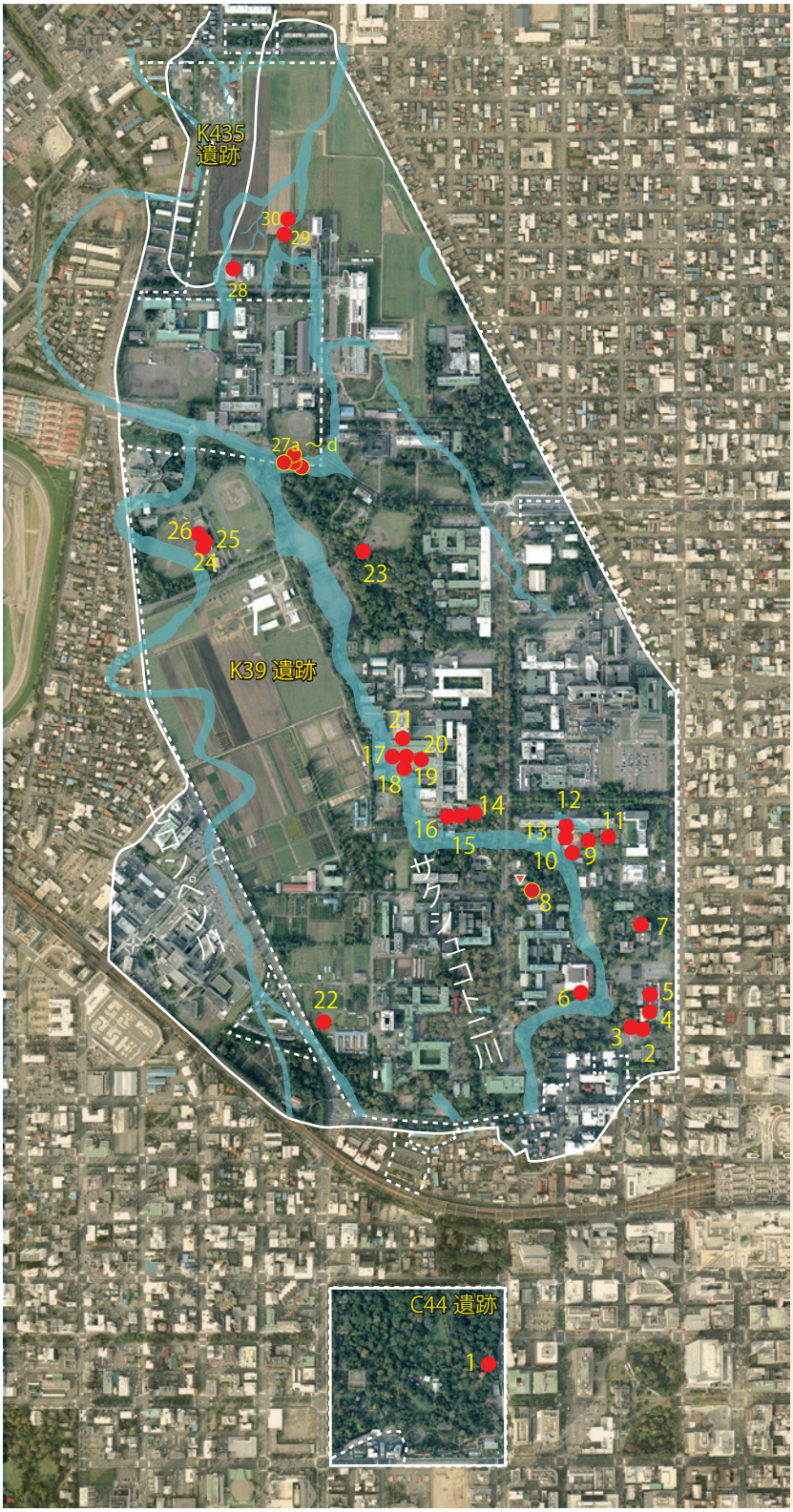
では、ご一緒に、北大札幌キャンパスにアースダイビングいたしましょう。



K39遺跡総合研究棟（機械工学系）地点の地層堆積の写真

右写真は、地層断面を１フレームで撮影できなかったため、上下に分割撮影した写真を重ね合わせて作成した。写真の右横には、黒色炭素含有量計測結果グラフを示した（山本正伸　「黒色炭素からみた火の利用」『考古学からみた北大キャンパスの 5,000 年』北海道大学総合博物館　2019 年刊行 45 頁下段図を改変）。赤印は炭素の含有量。

擦文前期の集落址–総合研究棟（機械工学系）地点［下表※印］と同時期の集落址–





▲ 28 番 K39 遺跡北キャンパス総合研究棟 6 号館地点の第 1 号竪穴住居址の遠景（擦文前期） 第1号竪穴住居址



▲ 11 番 K39 遺跡薬学部ファーマサイエンス地点第 4 号竪穴住居址での遺物出土状態（擦文前期） 竪穴の上端

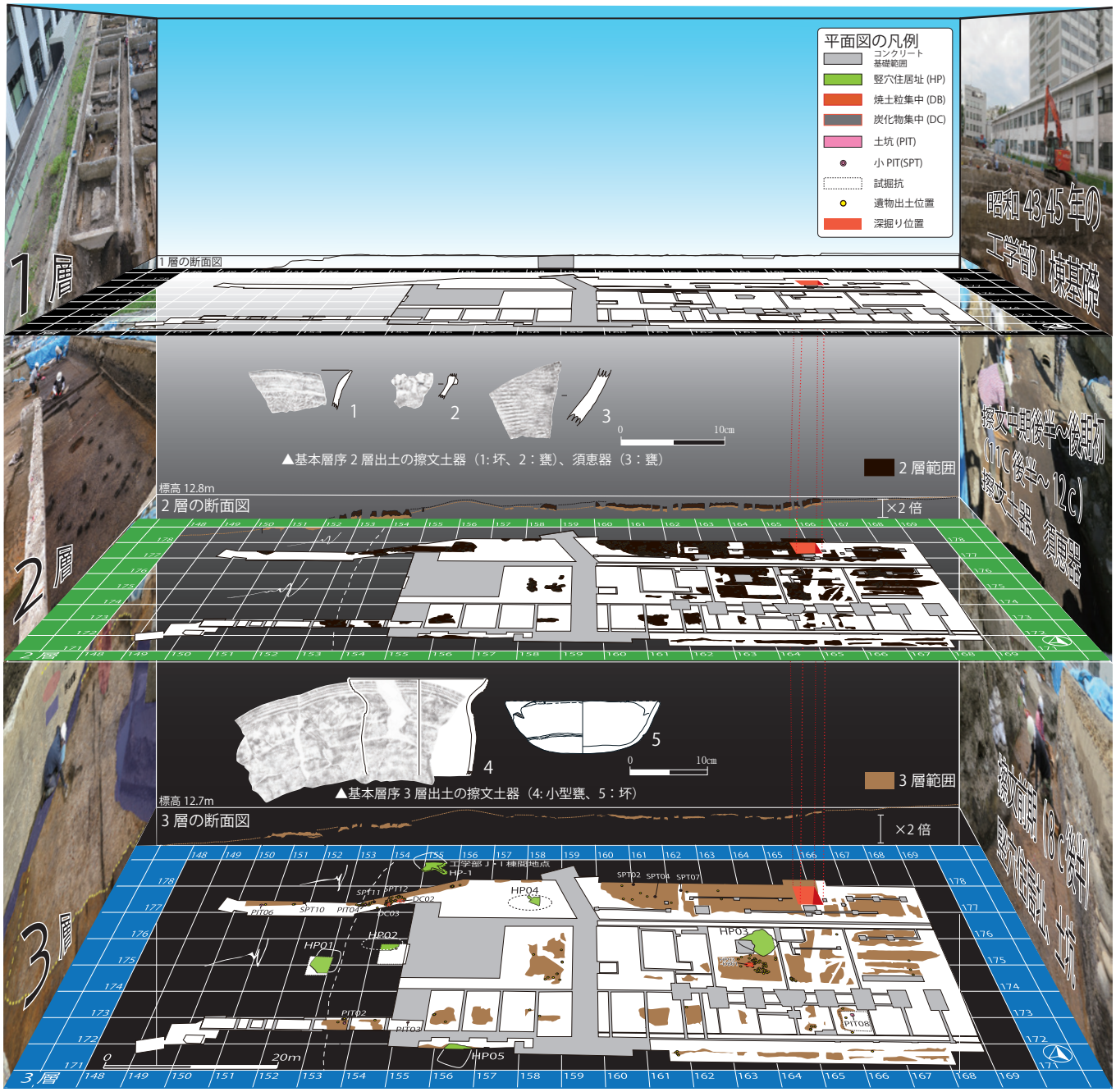


▲ 22 番 K39 遺跡農学部実験実習棟地点で発見された第 4 号竪穴住居址（擦文前期） 竪穴の上端

番号	地点名	竪穴住居址名	時期	報告書
1	C44遺跡植物園収蔵庫地点	HP01	擦文前期前半	北大構内の遺跡18
2	K39遺跡管理棟地点	HP01	擦文前期前半	北大構内の遺跡24
3	K39遺跡事務局本館屋外排水設備地点	HP01	擦文前期前半	北大構内の遺跡23
4	K39遺跡本部裏地点	第1号竪穴住居址	擦文前期後半	北大構内の遺跡12
5	K39遺跡事務局非常用自家発電設備地点	HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡23
6	K39遺跡附属図書館再生整備地点	HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡19
7	K39遺跡地球科学研究科研究棟第2地点	第1号竪穴住居址	擦文前期前半	北大構内の遺跡12
8	K39遺跡共同溝地点	3号住居址	擦文前期後半	北大構内の遺跡2
9	K39遺跡薬学部ファーマサイエンス研究棟地点	H24HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡21
10	K39遺跡薬学部ファーマサイエンス研究棟地点	H24HP02	擦文前期後半	北大構内の遺跡21
11	K39遺跡薬学部ファーマサイエンス研究棟地点	H24HP04	擦文前期後半	北大構内の遺跡21
12	K39遺跡薬学部研究棟地点	HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡16
13	K39遺跡南キャンパス総合研究棟B棟北地点	HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡18
14	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点	HP01	擦文前期後半	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点発掘調査報告書
15	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点	HP02	擦文前期後半	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点発掘調査報告書

番号	地点名	竪穴住居址名	時期	報告書
16	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点	HP03	擦文前期後半	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点発掘調査報告書
17	K39遺跡総合研究棟（機械工学系）地点	HP01	擦文前期前半	未報告 ※
18	K39遺跡総合研究棟（機械工学系）地点	HP02	擦文前期前半	未報告 ※
19	K39遺跡総合研究棟（機械工学系）地点	HP03	擦文前期前半	未報告 ※
20	K39遺跡総合研究棟（機械工学系）地点	HP04	擦文前期前半	未報告 ※
21	K39遺跡工学部J・I棟間地点	第1号竪穴住居址	擦文前期前半	北大構内の遺跡12
22	K39遺跡農学部実験実習棟地点	HP04	擦文前期後半	北大構内の遺跡22
23	K39遺跡更衣室地点	HP01	擦文前期前半	北大構内の遺跡17
24	K39遺跡サークル会館地点	第1号竪穴	擦文前期前半	北大構内の遺跡1
25	K39遺跡サークル会館地点	第2号竪穴	擦文前期前半	北大構内の遺跡1
26	K39遺跡サークル会館地点	第3号竪穴	擦文前期前半	北大構内の遺跡1
27	K39遺跡エルムトンネル地点	計4基(a～d)	擦文前期後半	K39遺跡　第6次調査 札幌市教育委員会
28	K39遺跡北キャンパス総合研究棟6号館地点	HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡19
29	K39遺跡国際科学イノベーション拠点施設地点	HP01	擦文前期後半	北大構内の遺跡22
30	K39遺跡国際科学イノベーション拠点施設地点	HP02	擦文前期後半	北大構内の遺跡22

K39遺跡総合研究棟（機械工学系）地点で‘アースダイビング’



▲総合研究棟（機械工学系）地点で確認された遺構・遺物の分布図。1 層～ 3 層の断面図は縦軸の幅を 2 倍に変形した。

総合研究棟（機械工学系）地点で発見された擦文文化の遺跡は、これまでの調査で明らかになった旧サクシュコトニ川の埋没河道から東側に 20m ほど離れた微高地に立地しています。その地点から河道に向かってゆるやかに傾斜する旧地形が当該地点の調査によって新たに明らかになりました。

発掘調査では、2 層で擦文中期～擦文後期初め頃（約 11 世紀後半～ 12 世紀）の土器が多数発見され（標高約 12.8m前後）、続く 3 層では擦文前期（約 8 世紀後半）のカマドが敷設された竪穴住居址や炭化物集中などの遺構群が埋没河道に向かって傾斜がきつくなる地点付近（標高約 12.7m前後）で発掘され、その周辺でも多くの土器や石器が発見されました。

3 層で発掘されたような擦文前期（8 世紀～ 9 世紀前半）の住居址群（集落遺跡か）が、当該地点から旧サクシュコトニ川右岸の上流側に向かってやや多く分布してる状態を読み取れます（本号 2 頁）。

「黒色土層」の正体は何か

北大キャンパスの地下には、ほぼ全域にわたって現地表面下約2〜4mの深度のところに黒色の薄い地層が「バーコード」のように何枚も堆積しています。今年度の総合博物館の企画展（2019年7〜9月）に合わせて、山本正伸氏（地球環境研究院・本センター運営委員）によってそれらの「黒色土層」の成分分析が行われ、黒色に発色している要因が「燃焼起源物質（黒色炭素）」であるという分析結果が得られました。^{14}C年代測定では最深部の「黒色土層」の形成年代は約5000年前ですが、その当時、周辺で人類が火を使用した活動を行っていたことを山本氏は推測しています。

しかし、「黒色土層」がキャンパス全域に均一的に広がっていることから、燃焼起源物質（黒色炭素）が直接的な人為的活動に由来するものではない可能性も考えられます。今後の新たな検討課題です。

第 21 回人類遺跡トレイルウォークの開催（報告）

2019年7月20日（土）に人類遺跡トレイルウォークを開催しました。「サクシュコトニ川沿いの遺跡を巡って」と題したテーマで、夏季企画展示が始まった総合博物館からサッカー・ラクビー場までを遺跡散策しました。確認調査を実施していたサッカー・ラクビー場では、参加者40名とともに、サクシュコトニ川右岸で形成された地層を観察しました。



▲サッカー・ラクビー場で露出した地層堆積の説明風景

総合博物館夏季企画展示「K39：考古学からみた北大キャンパスの 5,000 年」開催（報告）

2019年7月19日〜9月29日まで、総合博物館主催で、当センターが共催した、夏季企画展示が総合博物館1階企画展示室でおこなわれました。



▲北大札幌キャンパスで発掘された擦文土器、石器、木杭などが展示された。写真は、7 つのゾーンの内、第 4 のゾーンの様子である。

編　集　後　記

総合研究棟（機械工学系）地点の成果をまとめることで、擦文前期のイメージをさらに知る機会になりました。「アースダイビング2」企画展はただいま開催中です。（守屋）

これからも引き続き、最新の発掘調査の成果を、また遡及してこれまでに行ってきた各地点の発掘成果を、随時「アースダイビング」として紹介いたします。（小杉）

北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター第33号

発行　：北海道大学埋蔵文化財調査センター
〒060-0811　札幌市北区北11条西7丁目

電話　：011-706-2671　FAX：011-706-2094

e-mail: hokudaimaibun@gmail.com

URL　：http://maibun.facility.hokudai.ac.jp/